

上峰町文化財調査報告書第41集

上峰町内遺跡確認調査VII

上峰町内における開発行為に伴う

埋蔵文化財確認調査報告書

—平成26年度—

2016年3月

上峰町教育委員会



上峰町内遺跡確認調査Ⅶ

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
—平成26年度—



2016年3月

上峰町教育委員会

序

従来、上峰町は「遺跡の宝庫」と言わされてきました。北部の脊振山系、その南麓から派生し南北に延びる洪積世丘陵と谷、さらに有明海へと続く沖積平野と変化に富んだ地形を含む町域には、いたるところに先人たちの暮らしの足跡が刻み込まれています。教育委員会では、こうした人々の暮らしの足跡、歴史的資産を保存活用し、将来へ継承していくために、開発と文化財の保護との調整に努めてまいりました。

近世以来の純農村集落の面影を色濃く残してきた上峰町は、昭和40年代後半から「農工併進のまちづくり」を理念に掲げ、工業団地の整備による大規模工場の誘致、農業基盤整備事業の実施とまちづくりを進めてまいりました。町の中央を国道34号線が東西に横断し、ここから、福岡県久留米市へは県道が通るという恵まれた交通環境に位置しており、佐賀市や鳥栖市、久留米市へも最適な通勤圏にあるところから、近年人口も着実に伸び、ベッドタウンとして発展してまいりました。これに伴い、各種商業施設、事業所等の町内進出も相次ぎ、上峰町は平成元年の町制施行以来、この20余年間で近代的な田園都市へと大きく変貌を遂げました。

本書は、上峰町内の埋蔵文化財の保護と開発との調整を図るために上峰町が平成元年度より国庫補助事業の適用を受け実施してまいりました町内遺跡確認調査の報告書であります。この開発に伴う町内遺跡確認調査の実施によって多くの遺跡が破壊、消滅をまぬかれ保護されました。この報告書を学術的な資料として、また今後の埋蔵文化財保護と開発との調整を図るためにの資料として役立てていただければ幸いです。

なお、この町内遺跡確認調査にあたって、ご指導、ご協力をいただきました佐賀県教育委員会、開発事業主体者をはじめ、関係各位に対し深く感謝申し上げます。

平成28年3月

上峰町教育委員会

教育長 矢動丸 壽之

例　　言

1. 本書は、平成元年度から国庫補助事業として、上峰町内で実施してきた町内遺跡確認調査のうち平成26年度に実施した町内遺跡確認調査の報告書である。
2. 本書は、平成27年度の国庫補助事業により、上峰町教育委員会が作成、刊行したものである。
3. 町内遺跡確認調査は、上峰町教育委員会が実施した。
4. 現場での発掘作業は、重機により表土剥ぎを行い、調査員の指示により発掘作業員が検査し、遺構・遺物の有無を確認した。
5. 現場での図面、写真による記録作業は、調査員が行った。
6. 遺構などの現場における写真撮影及び出土遺物の写真撮影は、調査員が行った。
7. 調査後の出土遺物、記録類の簡単な整理作業は、当該年度にそれぞれ実施した。
8. 本書中の挿図・写真図版などの作成作業は、調査員の指示により、整理作業員が行った。
9. 本書の執筆・編集は、原田大介・伊達有彰が行った。
10. 本報告書に係る町内遺跡確認調査で出土した全ての遺物及び現場で作成した図面・写真・その他の記録類は、上峰町教育委員会で保管している。

凡　　例

1. 「確認調査」・「試掘調査」の用語については、広くは遺跡の範囲内外を基準に「確認調査」・「試掘調査」と区別して取り扱われているが、本書では「確認調査」と統一し表記している。
2. 確認調査番号については、年度ごとに平成をあらわす「H」、年度を表す「数字」、ハイフンの後に一連の番号を付して、調査番号としている。本書中、各年度調査位置図・各年度実施確認調査一覧表・各年度の報文中の調査番号は一致する。
例) 平成26年度に3番目に実施した○○遺跡確認調査 H26-3 ○○遺跡
3. 「調査後の措置」については、本文中の標記は最終結果を記載したが、各年度の一覧表中の標記は当該年度末時点での状況を記載している。
4. 確認調査等の結果を受けて実施した本調査については、確認調査報告の節の後に、遺跡名と調査区番号を付して報告する。
例) ○○遺跡本調査 ○○遺跡○区発掘調査
5. 本文・挿図中の方位については、全て座標化を基準としている。
6. 表中の数値に付した記号で、() は推定値を、※は部分値を表す。
7. 先の市町村合併により、上峰町周辺の町村も合併が進み町村名が変更になっている。本書では現在の市町名のあとに() で旧市町村名を記している。

調査組織

平成 26 年度

調査主体 上峰町教育委員会

調査事務局 総括 矢勤丸 寿之 上峰町教育委員会 教育長

事務主任 原田 大介 ■ 文化課長

経費執行 伊達 有彩 ■ 文化課文化係

調査組織 調査員 原田 大介 ■ 文化課長

伊達 有彩 ■ 文化課文化係

調査指導 佐賀県教育委員会

発掘作業参加者

平成 26 年度

職員 千鶴子・江副 愛子・大庭 始・鳩山 美千代・杉谷 勇・杉谷 嘉泰・田中 一馬・谷野 正一・堤 脩次郎・濱 富助・宮崎 正秋・牟田 康孝・矢勤丸 松美・山田 富士夫

整理作業参加者

江崎 愛子・島 美保子（平成 27 年度 整理作業員）

目 次

序

例言・凡例

調査組織・発掘作業参加者・整理作業参加者

| | | |
|--------|-------------|----|
| I. | 上峰町の位置と環境 | 1 |
| 1. | 上峰町の位置 | 1 |
| 2. | 歴史的環境 | 1 |
| II. | 調査の概要 | 6 |
| 1. | 調査に至る経緯 | 6 |
| 2. | 調査の方法 | 6 |
| III. | 平成 26 年度の調査 | 9 |
| H26-1 | 坊所二本松遺跡 | 13 |
| H26-2 | 坊所城跡 | 14 |
| H26-3 | 青柳古墳群(1) | 15 |
| H26-4 | 三上遺跡(1) | 17 |
| H26-5 | 杉寺遺跡 | 18 |
| H26-6 | 三上遺跡(2) | 19 |
| H26-7 | 米多城跡(1) | 20 |
| H26-8 | 周知外 中村地区(1) | 21 |
| H26-9 | 青柳古墳群(2) | 23 |
| H26-10 | 四本谷遺跡 | 24 |
| H26-11 | 坊所八本谷遺跡 | 25 |
| H26-12 | 三上遺跡(3) | 26 |
| H26-13 | 坊所五本谷遺跡(1) | 27 |
| H26-14 | 三上遺跡(4) | 28 |
| H26-15 | 坊所五本谷遺跡(2) | 29 |
| H26-16 | 坊所一本谷遺跡 | 30 |
| H26-17 | 周知外 中村地区(2) | 31 |
| H26-18 | 米多城跡(2) | 32 |
| H26-19 | 大堀遺跡 | 33 |
| H25-20 | 三上遺跡(5) | 34 |
| H26-21 | 周知外 八枚地区 | 35 |

挿 図 目 次

| | |
|--|----|
| Fig. 1 上峰町内主要遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000) | 2 |
| 2 上峰町遺跡地図 (1/50,000) | 7 |
| 3 平成 26 年度 確認調査地位置図 (1/50,000) | 12 |
| 4 H26-1 坊所二本松遺跡 (1/5,000) | 13 |
| 5 H26-2 坊所城跡 (1/5,000) | 14 |
| 6 H26-3 青柳古墳群(1) (1/5,000) | 15 |
| 7 H26-4 三上遺跡(1) (1/5,000) | 17 |
| 8 H26-5 杉寺遺跡 (1/5,000) | 18 |
| 9 H26-6 三上遺跡(2) (1/5,000) | 19 |
| 10 H26-7 米多城跡(1) (1/5,000) | 20 |
| 11 H26-8 周知外 中村地区(1) (1/5,000) | 21 |
| 12 H26-9 青柳古墳群(2) (1/5,000) | 23 |
| 13 H26-10 四本谷遺跡 (1/5,000) | 24 |
| 14 H26-11 坊所八本谷遺跡 (1/5,000) | 25 |
| 15 H26-12 三上遺跡(3) (1/5,000) | 26 |
| 16 H26-13 坊所五本谷遺跡(1) (1/5,000) | 27 |
| 17 H26-14 三上遺跡(4) (1/5,000) | 28 |
| 18 H26-15 坊所五本谷遺跡(2) (1/5,000) | 29 |
| 19 H26-16 坊所一本谷遺跡 (1/5,000) | 30 |
| 20 H26-17 周知外 中村地区(2) (1/5,000) | 31 |
| 21 H26-18 米多城跡(2) (1/5,000) | 32 |
| 22 H26-19 大塚遺跡 (1/5,000) | 33 |
| 23 H25-20 三上遺跡(5) (1/5,000) | 34 |
| 24 H26-21 周知外 八枚地区 (1/5,000) | 35 |

表 目 次

| | |
|-----------------------------------|----|
| Tab. 1 平成 26 年度 町内遺跡確認調査一覧表 | 10 |
| 報告書抄録 | |

図版目次

| | | | |
|-----|---------|-------------|----|
| PL. | 1 H26-1 | 坊所二本松遺跡 | 13 |
| 2 | H26-2 | 坊所城跡 | 14 |
| 3 | H26-3 | 青柳古墳群(1) | 16 |
| 4 | H26-3 | 青柳古墳群(1) | 16 |
| 5 | H26-4 | 三上遺跡(1) | 17 |
| 6 | H26-5 | 杉寺遺跡 | 18 |
| 7 | H26-6 | 三上遺跡(2) | 19 |
| 8 | H26-7 | 米多城跡(1) | 20 |
| 9 | H26-8 | 周知外 中村地区(1) | 22 |
| 10 | H26-8 | 周知外 中村地区(1) | 22 |
| 11 | H26-9 | 青柳古墳群(2) | 23 |
| 12 | H26-10 | 四木谷遺跡 | 24 |
| 13 | H26-11 | 坊所八木谷遺跡 | 25 |
| 14 | H26-12 | 三上遺跡(3) | 26 |
| 15 | H26-13 | 坊所五木谷遺跡(1) | 27 |
| 16 | H26-14 | 三上遺跡(4) | 28 |
| 17 | H26-15 | 坊所五木谷遺跡(2) | 29 |
| 18 | H26-16 | 坊所一本谷遺跡 | 30 |
| 19 | H26-17 | 周知外 中村地区(2) | 31 |
| 20 | H26-18 | 米多城跡(2) | 32 |
| 21 | H26-19 | 大塚遺跡 | 33 |
| 22 | H25-20 | 三上遺跡(5) | 34 |
| 23 | H26-21 | 周知外 八枚地区 | 35 |

I. 上峰町の位置と環境

1. 上峰町の位置 (Fig. 1)

佐賀県三養基郡上峰町は、佐賀県東部の穀倉地帯である佐賀平野のほぼ中央、三養基郡の西端に位置しており、東部は同郡みやき町（旧中原町・旧北茂安町）と、南部は同郡みやき町（旧三根町）と、西部は神埼郡吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）と境を接している。また、この神埼郡との境界は、古代以来の三根郡との郡界を踏襲しており、現在も町のほぼ中央を東西に横断する国道34号線付近の旧三田川町と境を接する地域は郡境地区と呼称されている。

鳥栖市から佐賀市大和町（旧佐賀郡大和町）に至る佐賀県東部には、北部に背振山地、その南麓に発達する更新世丘陵、さらに南部には有明海へと続く沖積平野が展開するという、変化に富んだ地形が発達している。なかでも、山麓部から沖積平野部へ移行する部分に発達する更新世丘陵は、山麓部に源を発し有明海へと南流する大小の河川によって浸食され北から南へ延びる舌状を呈した段丘を数多く形成している。そして、これらの段丘は古くから人々の生活の場として利用され、段丘上には数多くの遺跡が分布し、遺跡数、内容ともに県内でも有数の地域となっている。

そのようななか、南北に細長い町域をもつ上峰町においても、北部に山麓部、中央部に更新世丘陵部、南部に沖積平野部と、この佐賀県東部の特徴的な地形が展開しており、とくに中央部に発達する更新世丘陵地域を中心には遺跡の分布が知られ、古くから「遺跡の宝庫」と呼ばれてきた。

2. 歴史的環境 (Fig. 1)

上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観すると、前述のとおり、山麓部から更新世丘陵部におよぶ一帯が古くから人々の生活の舞台となっており、山麓部及び各段丘上には、現在、遺跡の存在が知られ、県内においてもとくに弥生時代遺跡を中心に遺跡の分布密度が高い地域となっている。沖積地を望む丘陵部のほとんどが、各時代の集落あるいは墓域として占有され、とりわけ、弥生時代以降の遺跡を縄文時代以前の遺跡と比較すると、量的にも、質的にも爆発的に増加、充実する。銅鐸の鉢型を出土した鳥栖市安水田遺跡¹、約400基の堀塁墓が検出されたみやき町（旧中原町）姫方遺跡²、埋納された12本の銅矛を出土したみやき町（旧北茂安町）検見谷遺跡³、堀塁墓から船載鏡を出土した吉野ヶ里町（旧東脊振村）三津永田遺跡⁴、近年の工業団地建設に先立つ調査で貴重な造構、遺物が検出された神埼市（旧神埼町）吉野ヶ里町（旧三田川町・旧東脊振村）に跨る吉野ヶ里遺跡⁵など多くの著名な集落遺跡、墳墓群が知られ弥生時代の「クニ」あるいは「ムラ」単位の集団の存在が想定されるに至っている。このようななか、南北約12km、東西約3kmと南北に細長い町域を持つ本町においても同様に、町の北部から中央部を占める更新世段丘上に弥生時代を中心に各時代の遺跡が分布している。

先土器時代の遺跡についてみると、各段丘で層序が異なる本地域においては本格的な調査がなされていないのが現状で、断片的な遺物の出土、採取にとどまっている。町内では、平成4年度の県営農業基盤整備事業に伴う八藤遺跡の調査において細石刃1点とこの時期のものと考えられる石器類が少量出土しているが、これが発掘調査における主な出土例である⁶。周辺地域では、吉野ヶ里町（旧三田川町）との境界に位置する二塚山丘陵の吉野ヶ里町（旧三田川町）側からナイフ形石器の採取例が報告されている⁷。また、平成5年度の県営農業基盤整備事業に伴う八藤遺跡下層における阿蘇4火砕流跡と埋没林に係る調査において、先土器時代の年代示標となっている姶良・Tn火山灰（AT）の含有ピークが、通常の丘陵上の埋蔵文化財調査において造構検出面としている「地山」



| 上峰町 | | | | 田中源町 | | | 西浦水道跡 | | 田冲町 |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--|-------|--|-----|
| 1 墓の原古墳群 | 12 鶴六本谷遺跡 | 24 扇所塚跡 | 47 西浦水道跡 | 50 北深安町 | 56 志楽殿六本松遺跡 | | | | |
| 2 横西山山塊 | 13 横土丘跡 | 25 鹿今塚跡 | 51 山田鹿春器出土地 | 57 宝誂谷遺跡 | 57 伊那坂前方後円墳 | | | | |
| 3 二木津古墳群 | 14 八尋古跡 | 26 杉寺遺跡 | 58 大坂下遺跡 | 49 宝誂古冢後円墳 | 58 周野遺跡 | | | | |
| 4 横西山南麓古墳群 | 15 二輪山遺跡 | 27 塙所二木松遺跡 | 59 八幡社遺跡 | 50 大保吉塚 | 59 東東岸村付 | | | | |
| 5 塙所三木松遺跡 | 16 至木松遺跡 | 28 塙所三木松遺跡 | 40 寺内遺跡 | 51 東花側倒出土遺跡 | 59 西石動古墳群 | | | | |
| 6 畠原源古墳群 | 17 船石南遺跡 | 29 畠の塚高千塚 | 41 離力塚跡 | 52 三井町 | 60 敦盛・谷造跡 | | | | |
| 7 谷連古墳群 | 18 船石南遺跡 | 30 西前半田遺跡 | 42 柄方東方後円墳 | 53 本分貝塚 | 61 三岸水田遺跡 | | | | |
| 8 塙所三木松遺跡 | 19 街道古跡 | 31 米多城跡 | 43 椎方塚遺跡 | 54 田三田川町 | 62 西石動遺跡 | | | | |
| 9 塙所古墳群 | 20 一本谷遺跡 | 32 前半田城跡 | 44 ドントドモ塚跡 | 55 吉野ヶ里丘陵遺跡 | 63 松原遺跡 | | | | |
| 10 新立古墳群 | 21 坂所一本谷遺跡 | 33 加茂稚便風磨跡 | 56 吉野ヶ里丘陵遺跡 | 56 下中伏遺跡 | 64 千上屋中路 | | | | |
| 11 雄那原遺跡 | 22 上のびやう塚古墳 | 34 江迎城跡 | 45 町南遺跡 | 57 下藤貝塚 | 65 横田遺跡 | | | | |
| | 23 日連原古墳群 | 35 一ノ橋御座集落跡 | 46 天神遺跡 | | | | | | |

Fig. 1 上峰町内主要遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)

の表層を構成する黄褐色風積土層の最上部付近、アカホヤ含有層のやや下部にて検出されている⁹⁾。

縄文時代になると、みやき町（旧中原町）香田遺跡⁹⁾や吉野ヶ里町（旧東脊振村）戦場ヶ谷遺跡¹⁰⁾などが出現する。町内においても、これまでにも町北部の丘陵部から土器や石器が、耕作や先覚者の遺跡の表面観察などによって断片的に出土、採取されていたが、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う発掘調査の結果、平成元年度の船石遺跡11区¹¹⁾、平成2年度から5年度にわたり実施した八藤丘陵の調査¹²⁾において、遺構や遺物がまとまって検出されており、今後の調査例の増加が期待されている。

弥生時代になると、遺跡の数や規模、その内容が飛躍的に増加、充実することは先に触れたが、早くから『魏志倭人伝』の「弥叔国」の所在地を佐賀平野東部、なかでも三養基都西部の旧三根郡にあてる論考が行われてきたことは周知のことである。旧三根郡に所属する上峰町においても、丘陵部のほとんどにこの時期の遺跡が展開している。しかし、町の南部や中央部の米多地区、坊所地区的丘陵部は、中世以降集落として発達し、早くから宅地化が進み、本格的な発掘調査の例に乏しく、わずかに再開発に伴い部分的に小規模の発掘調査が行われているに過ぎず、遺跡の詳細について把握できていないのが現状である。これに対して、町北部の大字堤地区では、近年の工業団地建設や農業基盤整備事業など大型開発に伴い広範囲かつ大規模な発掘調査が実施され、各遺跡から当時の社会の様子を知るうえで貴重な資料が得られている。町内の代表的な遺跡としては、豪棺墓から細形鋼劍や貝鏡を出土した切通遺跡¹³⁾、吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三川町）に跨る、佐賀県東部中核工業団地の建設に伴い豪棺墓、土壙墓など約300基が調査され、舶載鏡、小型微製鏡をはじめとする貴重な副葬品を出土した二塚山遺跡¹⁴⁾、佐賀県住宅供給公社の宅地造成に伴う調査で一集団の集落部分の全容が明らかになった一本谷遺跡¹⁵⁾、地区運動公園整備に伴う調査で5世紀代の古墳とともに支石墓はじめ多数の豪棺墓が検出された船石遺跡¹⁶⁾などが知られている。また、近年の上峰北部県営農業基盤整備事業に伴う調査においても、船石遺跡¹⁷⁾、船石南遺跡¹⁸⁾、八塚遺跡¹⁹⁾から住居址や豪棺墓などが多数検出されている。

古墳時代になると、この地域にも首長墓が出現する。初頭の時期にはみやき町（旧中原町）姫方原遺跡²⁰⁾、上峰町五本谷遺跡²¹⁾などにおいて方形周溝墓が営まれ、やがて中期にかけて鳥栖市から佐賀市大和町に至る山麓や丘陵部に大型の前方後円墳が出現する。鳥栖市劍塚古墳²²⁾、みやき町（旧中原町）姫方古墳²³⁾、上峰町西南部から吉野ヶ里町（旧三川町）に跨る日達原古墳群²⁴⁾、神埼市（旧神崎町）伊勢塚古墳²⁵⁾、佐賀市銚子塚古墳²⁶⁾、佐賀市大和町船塚古墳²⁷⁾など佐賀県東部の代表的な古墳が築かれるようになる。さらに後期になると、現在長崎自動車道や県道佐賀川久保・鳥栖線が通る山麓部から丘陵部に跨る一帯に小円墳を中心とした古墳が多数築かれ、それぞれが山麓部の尾根や谷あるいは丘陵を単位として後期古墳群を形成している。

後の『肥前風土記』にみえる三根郡米多郷に属する当時の上峰町一帯は、『古事記』、『国造本紀』などの記事に上れば応神天皇の曾孫にあたる「都紀女加」なる人物が初代の米多国造として中央より下向した地域に比定され、その中心は、町南西部の米多地区から吉野ヶ里町（旧三川町）東部の日達原一帯にあったと推定されている。町内の主要な古墳としては、都紀女加を始祖とする米多国造一族の墳墓として、5世紀代後半に形成されたと考えられる上のびゅう塚（現在、陵墓「都紀女加王墓」宮内庁管轄）はじめ無名塚、大塚、古船荷塚、船荷塚などの前方後円墳ほかからなる日達原古墳群²⁸⁾が知られていたが、戰前の陸軍飛行場建設の際に、唯一上のびゅう塚を残し他の古墳は簡単な発掘調査の後破壊されている。また町の北部の古墳としては、同じく5世紀代の古墳で、蛇行状鉄劍、蛇行状鐵矛を出土した船石天神宮境内の船石古墳1～3号墳²⁹⁾が知られている。古墳時代後期の古墳としては、町北部の鎮西山の周辺山麓部から高位段丘にかけて、小円墳を中心とする谷渡、青柳、新立、奥の院、鎮西山南麓、星形原などの古墳群が点在している。

一方、この時期の集落は、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中村遺跡³⁰、吉野ヶ里町（旧東脊振村）下石動遺跡³¹などが知られているが、弥生時代集落に比べ、遺跡そのものの数も少なく、調査例も少なくてまだ実態が明らかになっていないのが現状である。町内の遺跡をみても、当時の政治的中心であったと考えられる町南部の米多地区周辺における本格的な発掘調査の例がなく、今後の大きな課題といえる。

奈良・平安時代遺跡としては、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中村遺跡、吉野ヶ里町（旧東脊振村）辛上庵寺跡³²、董仙寺跡³³などが著名であるが、この時期の遺跡についてもまとまった調査例が少なく、実態はあまり解明されていない。当時の構造として大規模なものは、佐賀平野に敷かれた条里制の構造が上げられ。早くから地名などから条里の復元が試みられ、現在ではほとんどの条里が復元されている。また、大宰府から肥前国府へ通じる官道の調査も進み、近年部分的な発掘調査が行われている。

町内では堤土星跡³⁴や塔の庵寺跡³⁵などが奈良時代の遺跡として戦前から注目されている。町北部の堤地区の八幡丘陵と二塚山丘陵の間の谷底平野を遮断する形で築かれた堤土星跡は、版築工法により築かれた福岡県の水城に似た施設、「小水城」で、その築造目的が、大宰府の防衛施設であるとする説、灌漑用水確保のための溜池の堤防であるとする説など議論がなされてきたが、平成2年度からの土星の東方に接する八幡丘陵の調査において、土星東端から一直線に八幡丘陵を東方へ横断する道路側溝状の構造が検出され³⁶、その性格付けにあらたに古代道の存在が想定されることになった。また町南西部を占める目達原丘陵の南端部に位置する塔の庵寺跡は、百濟系單弁軒丸瓦が発見され、戦前までは基壇、礎石の存在が知られていた奈良時代中期の寺院址で、目達原古墳群を営んだ米多国造一族の流れをくむ三根郡の郡司層が建立したものと推定されている。また、町内における奈良・平安時代の集落は、農業基盤整備事業に伴う調査や近年の大規模小売店舗建設に先立つ坊所一本谷遺跡³⁷の調査などでまとった調査がなされたのみで、今後の調査例の増加が期待される。

中世になると、北部の山麓部の小峰に山城が築かれ、沖積平野には環濠を伴う平城や集落が出現する。町内の中世城館址としては、北部の領西山山城、上峰町中央部の平野を臨む丘陵部に坊所城跡、町南部の平野部には米多城跡、前半田城跡、江迎城跡、一の橋環濠集落、加茂環濠集落などが知られていた³⁸。しかし、昭和40年代後半からの園場整備事業によって、これら平野部の遺構は、原状がほとんど失われてしまった。そのようななかで、町の親水公園として整備された江迎城跡では13世紀後半代の龍泉窯系の青磁碗が建物跡とともに出土し、また、坊所城跡では16世紀後半代の青花がそれぞれ出土している³⁹。

以上、上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観したが、まさにこの地域は遺跡の密度、その内容ともに高く、遺跡の宝庫と呼ぶにふさわしい地域といえる。

註

- 1) 藤瀬根博・石橋新次『袖北遺跡群範囲確認調査第3年次概要報告書』鳥栖市文化財調査報告書第30集鳥栖市教育委員会 1980
- 2) 木下巧・天本洋一『姫方遺跡』佐賀県文化財調査報告書第30集鳥賀県教育委員会 1974
- 3) 七田忠昭『検見谷遺跡』北佐安町文化財調査報告書第2集北佐安町教育委員会 1986
- 4) 金闇太夫・坪井清足・金闇忠『佐賀県三津水田遺跡』『日本農耕文化の生成』日本考古学協会 1961
- 5) 七田忠昭他『吉野ヶ里』佐賀県文化財調査報告書第113集佐賀県教育委員会 1992
- 6) 原田大介『八幡遺跡III』上峰町文化財調査報告書第16集上峰町教育委員会 1999
- 7) 七田忠志『原始』『上峰村史』上峰村 1979
- 8) 下山正一・西田民雄『II. 佐賀県上峰町周辺の地形と地質』『佐賀平野の阿蘇4火葬流と埋没林』上峰町文化財調査報告書第11集上峰町教育委員会 1994
- 9) 高瀬哲郎・堤安信・久保伸洋『香田遺跡』『香田遺跡』九州横断自動車道関係埋藏文化財発掘調査報告書2佐賀県文化

財調査報告書第57集 佐賀県教育委員会 1981

- 10) 七田忠志 「佐賀県鞍ヶ谷遺跡」『史前学雑誌』 6-2・4 1934
- 11) 原田大介 「船石遺跡V」 上峰町文化財調査報告書第12集 上峰町教育委員会 1995
- 12) 原田大介 「八幡遺跡II・塙土塙跡II」 上峰町文化財調査報告書第14集 上峰町教育委員会 1998
前出(6)
- 13) 金剛丈夫・金闇惣・原口正三 「佐賀県切通遺跡」『日本農耕文化の生成』 日本考古学協会 1961
- 14) 高島忠平・七田忠昭他 「二塚山遺跡」「二塚山」 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 15) 七田忠昭 「一本谷遺跡」 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 16) 七田忠昭 「船石遺跡」 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 17) 鶴田浩二・原田大介 「船石遺跡II 図録編」 上峰村文化財調査報告書第6集 上峰村教育委員会 1988
鶴田浩二・原田大介 「船石遺跡II本文編」 上峰村文化財調査報告書第7集 上峰村教育委員会 1989
- 18) 原田大介 「船石遺跡III」 上峰町文化財調査報告書第8集 上峰町教育委員会 1990
原田大介 「船石遺跡IV」 上峰町文化財調査報告書第9集 上峰町教育委員会 1991
- 19) 原田大介 「船石南遺跡I」 上峰町文化財調査報告書第21集 上峰町教育委員会 2002
原田大介 「船石南遺跡II」 上峰町文化財調査報告書第22集 上峰町教育委員会 2002
- 20) 原田大介 「八幡遺跡I」 上峰町文化財調査報告書第13集 上峰町教育委員会 1997
- 21) 木下巧・七田忠昭 「五本谷遺跡」「二塚山」 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 22) 石橋新次 「劍塚前方後円墳」 烏栖市文化財調査報告書第22集 烏栖市教育委員会 1984
- 23) 前出(2)
- 24) 松尾植作 「日遠原古墳群調査報告」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第9輯 佐賀県教育委員会 1950
- 25) 木下之治 「古代面家の形成」『佐賀県史』佐賀県 1968
- 26) 木下之治編 「鏡子塚」 佐賀市教育委員会1976
- 27) 松尾植作 「佐賀県考古大観」 祐徳博物館 1959
- 28) 前出(24)
- 29) 前出(16)
- 30) 七田忠昭・高山久美子・西田和己 「下中杖遺跡」 佐賀県文化財調査報告書第54集 佐賀県教育委員会 1980
- 31) 高瀬哲郎他 「下石動遺跡」「下石動遺跡」 九州横断自動車道関係彌文化財発掘調査報告書(6) 佐賀県文化財調査報告書第86集 佐賀県教育委員会 1987
- 32) 松尾植作 「東脊振村辛上魔寺跡の調査」 『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』第5輯 佐賀県 1936
- 33) 田平徳栄他 「武仙寺跡」 東脊振村文化財調査報告書第4集 東脊振村教育委員会 1980
- 34) 高島忠平・樋一義 「塙土塙跡」 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1978
- 35) 松尾植作 「塔の塙庵寺址」 『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第7輯 佐賀県 1940
- 36) 前出(12)
原田大介 「八幡遺跡III」 上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 37) 平成5、6年度、上峰町教育委員会調査、整理中
- 38) 米倉二郎 「中世」『上峰村史』 上峰村 1979
- 39) 原田大介 「坊所城跡」 上峰町文化財調査報告書第10集 上峰町教育委員会 1992

II. 調査の概要

1. 調査に至る経緯

上峰町教育委員会では、平成元年度より、国庫補助事業の適用を受け、埋蔵文化財保護と開発との調整を図るために開発行為に伴い町内遺跡について事前の確認調査を実施してきた。民間あるいは公共機関等が主体となって実施される町内における各種開発行為について事前に協議を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地の内外にかかわらず、これまでに埋蔵文化財発掘調査歴がない土地については、開発面積や工法等の制約がない限り、開発主体者等に事前の確認調査の実施にむけた協力を要請している。

2. 調査の方法

確認調査の方法は、開発予定地に面積的、地形的な制約がない場合、原則として10m×3mの試掘溝により地下の遺構・遺物の有無を確認することとしている。図上で開発予定範囲全体に10mのメッシュを組み、このメッシュに10m×3mの試掘溝を一マスおきに市松模様状に設定し、試掘溝の配置計画を作成している。この試掘溝配置計画をもとに現地で試掘溝を設定し、確認調査を実施している。

また、開発面積に対する試掘面積の割合は、事前に図上で試掘溝を設定する時点ではおおむね開発面積の10%を目途としているものの、実際の調査では現地の種々の制約により、試掘溝の規模、配置等は臨機応変な対応を探ることも多く、試掘面積を縮小せざるを得ない場合も少なくはない。

各試掘溝の掘削については、遺構検出面までの掘削には可能な限り重機を使用しているが、重機が使用できない場合、包含層や遺構の掘り下げなどそれ以上の精査が必要な場合などは作業員の人力により掘削を行っている。

試掘の結果、遺構などが検出された試掘溝については、適宜、遺構配図等の略測を行い、縮尺1/100程度の平面図、縮尺1/20程度の土層断面図を作成し、フィルムカメラ・デジタルカメラによる写真撮影を行い記録としている。作業終了後は、原則として試掘溝は埋め戻しを行い原状への復旧を図っている。

また、確認調査の結果、開発予定地内から遺構や遺物が検出された場合で、かつ、調査原因が個人専用住宅の建設、個人による自己所有農地の改良など、遺跡の記録保存等に係る経費について、これを開発主体者に求めることが困難であると認められる場合は、本補助事業の予算の範囲内において、検出された地下の埋蔵文化財に工事の影響が及ぶ範囲について記録保存を目的とした必要最小限の本調査を実施することとしている。

上峰町全図

| 地名 | 地番 |
|----------------|-----------|
| 1. 鶴之谷遺跡 | 55 大字古賀 |
| 2. 鶴前町(二重井川)城跡 | 56 小字古賀 |
| 3. 鶴前町城跡 | 57 鶴前町 |
| 4. 鶴前町城跡 | 58 鶴前町 |
| 5. 鶴前町城跡(△) | 59 鶴前町二重井 |
| 6. 鶴前町古墳群 | 60 鶴前町古墳群 |
| 7. 鶴前町古墳群 | 61 鶴前町古墳群 |
| 8. 鶴前町古墳群 | 62 鶴前町古墳群 |
| 9. 鶴前町古墳群 | 63 鶴前町古墳群 |
| 10. 鶴前町古墳群 | 64 鶴前町古墳群 |
| 11. 鶴前町古墳群 | 65 鶴前町古墳群 |
| 12. 鶴前町古墳群 | 66 鶴前町古墳群 |
| 13. 鶴前町古墳群 | 67 鶴前町古墳群 |
| 14. 鶴前町古墳群 | 68 鶴前町古墳群 |
| 15. 鶴前町古墳群 | 69 鶴前町古墳群 |
| 16. 鶴前町古墳群 | 70 鶴前町古墳群 |
| 17. 鶴前町古墳群 | 71 鶴前町古墳群 |
| 18. 鶴前町古墳群 | 72 鶴前町古墳群 |
| 19. 鶴前町古墳群 | 73 鶴前町古墳群 |
| 20. 鶴前町古墳群 | 74 鶴前町古墳群 |
| 21. 鶴前町古墳群 | 75 鶴前町古墳群 |
| 22. 鶴前町古墳群 | 76 鶴前町古墳群 |
| 23. 鶴前町古墳群 | 77 鶴前町古墳群 |
| 24. 八幡遺跡 | 78 八幡遺跡 |
| 25. 鶴前町古墳群 | 79 鶴前町古墳群 |
| 26. 鶴前町古墳群 | 80 鶴前町古墳群 |
| 27. 鶴前町古墳群 | 81 鶴前町古墳群 |
| 28. 鶴前町古墳群 | 82 鶴前町古墳群 |
| 29. 鶴前町古墳群 | 83 鶴前町古墳群 |
| 30. 鶴前町古墳群 | 84 鶴前町古墳群 |
| 31. 鶴前町古墳群 | 85 鶴前町古墳群 |
| 32. 鶴前町古墳群 | 86 鶴前町古墳群 |
| 33. 鶴前町古墳群 | 87 鶴前町古墳群 |



Fig. 2 上峰町遺跡地図 (1/50,000)

III. 平成26年度の調査

Tab. 1 平成26年度 町内遺跡確認調査一覧表

| No. | 遺跡名 | 所在地 | 原因者 | 事業内容 | 工事面積(cm) | 調査面積(cm) | 確認調査時期 | 確認調査結果 | 調査後の措置 | 備考 |
|-----|------------|--|------------|--------------|----------|----------|--|--|--------------------------|--|
| 1 | 坊所二本松遺跡 | 上峰町大字坊所字二本松 336番地2, 336番地3, 336番地4 | 個人 | 個人専用住宅建設工事 | 331 | 20 | 平成26年4月4日 | 中世の溝跡が検出した。 | 工事実施。 | 開墾主体者が直接発見。検出された遺構については杭工法の見直しを要請し遺構に与える影響を最小限にとどめたうえで盛土保存。 |
| 2 | 坊所城跡 | 上峰町大字坊所字櫻寺 709番地1 | 個人 | 埋蔵文化財の有無確認 | 1,026 | 100 | 平成26年5月1日 | ピットや溝跡、堅穴跡 物などを検出し、遺物包含層から須恵器・土師器・中世陶磁器を確認した。 | 埋蔵文化財が全面に遺存していることが確認された。 | |
| 3 | 青柳古墳群(1) | 上峰町大字堤字六本谷 2069番地, 2671番地, 2668番地, 2677番地 | 有限会社島ノ江熟料店 | 太陽光発電施設建設工事 | 16,673 | 385 | 平成26年5月16日 平成26年5月19日 平成26年5月21日 平成26年5月22日 | 遺構・遺物は検出されなかった。 | 工事実施。 | |
| 4 | 三上遺跡(1) | 上峰町大字坊所字西峰 2962番地13 | 個人 | 埋蔵文化財の有無確認 | 465 | 16 | 平成26年6月25日 | 遺構・遺物は検出されなかった。 | 埋蔵文化財なし。 | |
| 5 | 杉寺遺跡 | 上峰町大字坊所字杉寺 1352番地9 | 個人 | 個人専用住宅建設工事 | 146 | 14 | 平成26年7月8日 | 遺構・遺物は検出されなかった。 | 工事実施。 | |
| 6 | 三上遺跡(2) | 上峰町大字坊所字三上 3234番地1, 3235番地1, 3236番地1 | 個人 | 分譲宅地造成工事 | 2,880 | 270 | 平成26年6月24日 | ピットや溝跡、土壤などを検出し、土師器片を確認した。 | 工事実施。 | 検出された遺構について(主その)ほとんどで工事の影響が及ばないことを確認し盛土保存。造成計画高で西端の一部がわずかに堆山に達するものの遺構に与える影響は軽微であると判断できる。 |
| 7 | 米多城跡(1) | 上峰町大字前半田字一本桙 1321番地 | 米多洋立保存会 | 浮立お施所建物建設 | 67 | 13 | 平成26年7月16日 | ピットが検出された。 遺物は検出されなかった。 | 工事実施。 | 工事の影響が及ばないことを確認し盛土保存。 |
| 8 | 周知外牛村地区(1) | 上峰町大字坊所字下坊所 1737番地2, 1086番地3, 上峰町大字江迎字牛村 1283番地5, 1283番地6, 1285番地4, 1338番地2, 1340番地3, 1396番地5, 上峰町大字江迎九丁分 2438番地2 | 東部土木事務所 | 県道神崎北茨安線改良工事 | 6,869 | 160 | 平成26年7月23日 平成26年7月24日 平成26年7月25日 | 遺構・遺物は検出されなかった。 | 工事実施。 | |

| No. | 遺跡名 | 所在地 | 原因者 | 事業内容 | 工事面積(m ²) | 調査面積(m ²) | 確認調査時期 | 確認調査結果 | 調査後の措置 | 備考 |
|-----|------------|--|-------------|--------------|-----------------------|-----------------------|-------------|--|------------------------------|---|
| 9 | 青柳古墳群(2) | 上峰町大字堤字二本柳 3648番地1 | 竹下木材店 | 資材置場造成工事 | 963 | 84 | 平成26年10月22日 | 古墳の周囲。石室の施方と思われる造構が出土した。遺物は検出されなかった。 | | 立会 |
| 10 | 四本谷遺跡 | 上峰町大字堤字四本谷 1903番地23 | 個人 | 個人専用住宅建設工事 | 399 | 40 | 平成26年8月6日 | 遺構・遺物は検出されなかった。 | 工事実施。 | |
| 11 | 坊所八本谷遺跡 | 上峰町大字坊所字八本谷 2616番地1 | 個人 | 個人専用住宅建設工事 | 598 | 40 | 平成26年8月6日 | 奈良時代のものと思われる溝跡を検出した。遺物は検出されなかった。 | 工事実施。 | 検出された造構については、工事の影響が及ばないことを確認し盛土保存。 |
| 12 | 三上遺跡(3) | 上峰町大字坊所字三上 3179番地1, 3180番地1 | 個人 | 共同住宅建設工事 | 1,324 | 120 | 平成26年8月7日 | 奈良時代のものと考えられるビットや土壌等を検出した。遺物は検出されなかった。 | 開発中止 | |
| 13 | 坊所五本谷遺跡(1) | 上峰町大字坊所字五本谷 1872番地の一部 | 個人 | 個人専用住宅建設工事 | 147 | 10 | 平成26年8月6日 | 遺構・遺物は検出されなかった。 | 工事実施。 | |
| 14 | 三上遺跡(4) | 上峰町大字坊所字三上 3180番地3, 3181番地1 | 個人 | 共同住宅建設工事 | 1,040 | 90 | 平成26年8月8日 | 奈良時代のものと考えられるビットを検出した。遺物は検出されなかった。 | 本調査終了後、工事実施。 | 地盤改良工事が実施される建物部分370m ² について記録保存を目的として本調査を実施。 |
| 15 | 坊所五本谷遺跡(2) | 上峰町大字坊所字五本谷 1825番地2 | 個人 | 埋蔵文化財の有無確認 | 320 | 36 | 平成26年11月18日 | 中世のものと考えられるビットや土壌等を検出した。土師器片も検出した。 | 調査対象区域の西側に遺構が存在していることが確認された。 | 対象面積622m ² のうち調査可能部分320m ² |
| 16 | 坊所一本谷遺跡 | 上峰町大字坊所字七本谷 1590番地1, 1584番地1, 1583番地6 | 株式会社コボレーション | 共同住宅建設工事 | 2,717 | 55 | 平成26年12月16日 | 旧倉庫のコンクリート土間が全面に進発していたためそれ以上の掘削は不可能であった。 | 工事実施。 | コンクリートの土間を利用して工事を行うため地下の埋蔵文化財への影響はないものと考えられる。 |
| 17 | 周知外中村地区(2) | 上峰町大字坊所字二本松 296番地1, 248番地3 | 東部土木事務所 | 県道神崎北茂安線改良工事 | 67 | 7 | 平成27年1月14日 | 遺構・遺物は検出されなかった。 | 工事実施。 | |
| 18 | 米多城跡(2) | 上峰町大字前平田字館 714番地 | 個人 | 資材置場造成工事 | 214 | 14 | 平成27年2月10日 | 中世のものと考えられる土壌を検出した。遺物包含層の中に土器の小片が散見された。 | 工事実施。 | 検出された造構については工事の影響が及ばないことを確認し盛土保存。 |
| 19 | 大塚遺跡 | 上峰町大字坊所字大塚 1523番地4, 1523番地64, 1523番地65 | 個人 | 共同住宅建設工事 | 1,414 | 90 | 平成27年2月13日 | 遺構・遺物は検出されなかった。 | 工事実施。 | |
| 20 | 三上遺跡(5) | 上峰町大字坊所字西峰 2926番地1 | シティ開発 | 埋蔵文化財の有無確認 | 946 | 90 | 平成27年3月10日 | 遺構・遺物は検出されなかった。 | | 埋蔵文化財なし。 |
| 21 | 周知外八牧地区 | 上峰町大字江迎字八牧 588番地2 | 個人 | 駐車場用地造成工事 | 47 | 8 | 平成27年3月11日 | 遺構・遺物は検出されなかった。 | 工事実施。 | |
| 合 计 | | | | | 38,642 | 1,862 | | | | |

上峰町全図



Fig. 3 平成26年度 確認調査地位置図 (1/50,000)

H 26-1

遺跡名：坊所二本松遺跡

調査地：上峰町大字坊所字二本松

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：331m²

調査面積：20m²

調査時期：平成26年4月4日

立地と環境：坊所二本松遺跡は、町中南部の上峰町大字

坊所字二本松に所在し、現下坊所集落が立

地する坊所丘陵南端部に位置する、弥生時代から古墳時代に及ぶ集落および墳墓遺跡である。

調査対象区域は、坊所丘陵の南端部、標高8m付近に位置しており、これまで宅地として造成されていた。

遺構と遺物：中世の構跡1条を検出した。遺物は検出されなかった。

調査後措置：検出された遺構については、杭工法の見直しを要請し、遺構に与える影響を最小限にとどめたうえで盛土保存。工事実施。



Fig. 4 坊所二本松遺跡 (1/5,000)



PL. 1 No.1試掘溝 遺構検出状況

H 26-2

遺跡名：坊所城跡

調査地：上峰町大字坊所字櫛寺

工事内容：埋蔵文化財の有無確認

工事面積：1,026m²

調査面積：100m²

調査時期：平成26年5月1日

立地と環境：坊所城跡は、上峰町中南部、大字坊所字

櫛寺一帯に城域をもつ中世の城館跡で、

吉野ヶ里町目連原付近から本町坊所地区へ延びる坊所丘陵の中央部、標高約9m～11m付近に位置している。平成3年に実施した分譲宅地造成工事に伴う城域の南西部部分の調査では土塁、掘立柱建物、溝跡、井戸などが検出され、16世紀後半の舶載染付磁器片などが出土している。周辺には櫛寺遺跡・杉寺遺跡など中世の集落遺跡が分布している。

調査対象区域は、坊所丘陵の中央部、坊所城跡の城域の東部、標高9m付近に位置しており、畑として利用されている。

遺構と遺物：ピットや溝跡、堅穴建物などを検出し、遺物包含層から須恵器・土師器・中世陶磁器を確認した。

調査後措置：埋蔵文化財が全面に遺存していることが確認された。



Fig. 5 坊所城跡 (1/5,000)



PL. 2 №2試掘溝 遺構検出状況

H 26-3

遺跡名：青柳古墳群(1)

調査地：上峰町大字堤字六本谷

工事内容：太陽光発電施設建設工事

工事面積：16,673m²

調査面積：385m²

調査時期：平成26年5月16日・5月19日・5月21日・5月22日

立地と環境：青柳古墳群は、上峰町大字堤字一本柳・

六本谷に所在する小円墳を主体とする古墳時代後期の古墳群で、町北部の鎮西山南麓から大字堤字六本谷地区へ派生する丘陵の尾根上に位置している。

調査対象地区は、県道島柄川久保線北側の丘陵の南部、青柳丘陵の中央部標高30m～47m付近に位置し、これまで原野であった。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 6 青柳古墳群(1) (1/5,000)



PL. 3 調査区近景



PL. 4 作業状況

H 26-4

遺跡名：三上遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：埋蔵文化財の有無確認

工事面積：465m²

調査面積：16m²

調査時期：平成26年6月25日

立地と環境：三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本

町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中

央部、標高約8m～16m付近に広がる彌文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

本町と西方の吉野ヶ里町にまたがる目達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されているが、それ以前はいくつかの丘陵と谷が入り組んだ複雑な地形を呈しており、一帯の丘陵部には大塚、古稱荷塚、稻荷塚などの前方後円墳が点在し目達原古墳群を形成していた。

調査対象区域は目達原丘陵の中央南部、標高11m付近に位置しており、これまで畠として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：埋蔵文化財なし。



Fig. 7 三上遺跡(1) (1/5,000)



PL.5 作業状況

H 26-5

遺跡名：杉寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所字杉寺

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：146m²

調査面積：14m²

調査時期：平成25年7月8日

立地と環境：杉寺遺跡は、本町大字坊所字杉寺に所在す

る弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、吉

野ヶ里町目達原付近から本町前牟田集落付近に延びる目達原丘陵東部、および同丘陵から町中南部の現上坊所、下坊所集落付近へ派生する坊所丘陵の西辺部に跨って位置している。

本遺跡の周辺には、西側の目達原丘陵上に三上遺跡、米多の井伝承地、塔の塚廃寺跡などの遺跡が、東側の坊所丘陵上には恵寺遺跡、坊所城跡などの遺跡がそれぞれ所在している。

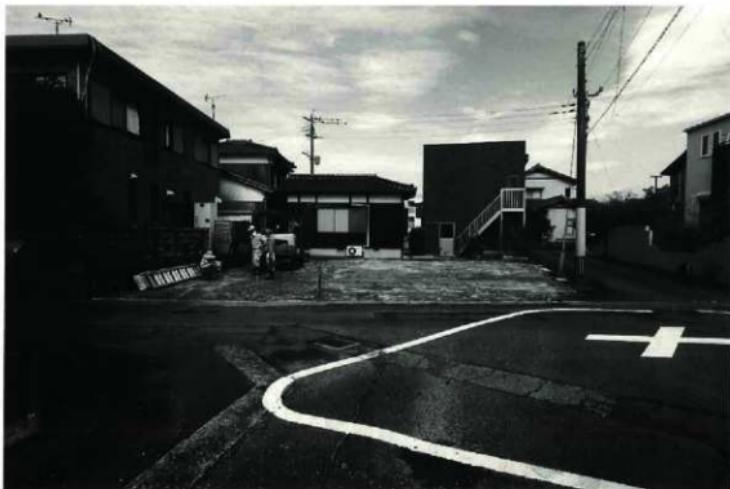
調査対象区域は、目達原丘陵から本町坊所地区へ派生する坊所丘陵の、標高10m付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig. 8 杉寺遺跡 (1/5,000)



PL. 6 調査区全景

H 26-6

遺跡名：三上遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：2,880 m²

調査面積：270 m²

調査時期：平成26年6月24日

立地と環境：三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本

町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中

央部、標高約8m～16m付近に広がる調文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

本町と西方の吉野ヶ里町にまたがる目達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されているが、それ以前はいくつかの丘陵と谷が入り組んだ複雑な地形を呈しており、一帯の丘陵部には大塚、古墳荷塚、稲荷塚などの前方後円墳が点在し目達原古墳群を形成していた。

調査対象区域は目達原丘陵の北部、標高16m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：ピットや溝跡、土壌などを検出し、土師器片を確認した。

調査後措置：検出された遺構については、そのほとんどで工事の影響が及ばないことを確認し盛土保存。造成計

画高で西端の一部がわずかに地山に達するものの遺構に与える影響は軽微であると判断できる。工事実施。



Fig. 9 三上遺跡(2) (1/5,000)



PL. 7 No. 6試掘溝 遺構検出状況

H 26-7

遺跡名：米多城跡(1)

調査地：上峰町大字前牟田字一本桜

工事内容：浮立お旅所建物建設工事

工事面積：67m²

調査面積：13m²

調査時期：平成26年7月16日

立地と環境：米多城跡は、上峰町大字前牟田字七反田・

屋敷の坪・館・絶井鶴・一本桜一帯に所在

する中世城館跡で、町南西部の日達原丘陵南端部が沖積地に設する現米多集落南部、標高3m付近に位置している。

調査対象区域は現下米多集落内の沖積地標高4m付近に位置しており、浮立お旅所として利用されていた。

遺構と遺物：ピットが検出された。遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事の影響が及ばないことを確認し盛土保存。工事実施。



Fig.10 米多城跡(1) (1/5,000)



PL. 8 調査区近景

H 26-8

遺跡名：周知外 中村地区(1)

調査地：上峰町大字坊所字下坊所

工事内容：県道神埼北茂安線改良工事

工事面積：6,869m²

調査面積：160m²

調査時期：平成26年7月23日・7月24日・7月25日

立地と環境：調査対象区域は中村地区の沖積地標高5m付近に位置し、これまで水田として利用されていた。当該地の南側には中世の集落跡である加茂環濠集落跡がひろがる。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.11 周知外 中村地区(1) (1/5,000)



PL. 9 調査区近景



PL. 10 No.5試掘溝

H 26-9

遺跡名：青柳古墳群(2)

調査地：上峰町大字堤字二本柳

工事内容：資材置場造成工事

工事面積：963m²

調査面積：84m²

調査時期：平成26年10月22日

立地と環境：青柳古墳群は、上峰町大字堤字一本柳・

六本谷に所在する小円墳を主体とする古

墳時代後期の古墳群で、町北部の額西山南麓から大字堤字六本谷地区へ派生する丘陵の尾根上に位置している。

調査対象区域は県道佐賀川久保線の南部青柳丘陵の中央部標高45m付近に位置し、これまで水田であった。

遺構と遺物：古墳の周溝、石室の掘方と思われる遺構が出土した。遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.12 青柳古墳群(2) (1/5,000)



PL. 11 No.1試掘溝 遺構検出状況

H 26-10

遺跡名：四本谷遺跡

調査地：上峰町大字堤字四本谷

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：399m²

調査面積：40m²

調査時期：平成26年8月6日

立地と環境：四本谷遺跡は、上峰町大字堤字四本谷に

所在する弥生時代の墳墓遺跡で、町中北部の二塚山丘陵の南麓に立地している。

調査対象区域は井手口丘陵の北部、標高18m付近に位置しており、これまで畠として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.13 四本谷遺跡 (1/5,000)



PL.12 作業状況

H26-11

遺跡名：坊所八本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字八本谷

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：588m²

調査面積：40m²

調査時期：平成26年8月6日

立地と環境：坊所八本谷遺跡は、吉野ヶ里町目達原付

近から本町米多集落付近へ延びる目達原

丘陵の東端部、標高約16m付近に位置する古墳時代の集落遺跡である。

本町と西方の吉野ヶ里町にまたがる目達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されているが、それ以前はいくつかの丘陵と谷があり組んだ複雑な地形を呈しており、一帯の丘陵部には大塚、古籠荷塚、稻荷塚などの前方後円墳が点在し目達原古墳群を形成していた。

調査対象区域は、目達原丘陵の東部、標高16m付近に位置しており、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：奈良時代のものと思われる溝跡を検出した。遺物は検出されなかった。

調査後措置：検出された遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し盛土保存。工事実施。



Fig. 14 坊所八本谷遺跡 (1/5,000)



PL.13 No.2試掘溝 遺構検出状況

H 26-12

遺跡名：三上遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：1,324m²

調査面積：120m²

調査時期：平成26年8月7日

立地と環境：三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本

町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中

央部、標高約8m～16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

本町と西方の吉野ヶ里町にまたがる目達原丘陵は、戦時の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されているが、それ以前はいくつかの丘陵と谷が入り組んだ複雑な地形を呈しており、一帯の丘陵部には大塚、古稲荷塚、稻荷塚などの前方後円墳が点在し目達原古墳群を形成していた。

調査対象区域は目達原丘陵の北部、標高16m付近に位置しており、これまで畠として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代のものと考えられるピットや土壙等を検出した。遺物は検出されなかった。

調査後措置：開発中止。



Fig.15 三上遺跡(3) (1/5,000)



PL.14 №.2試掘溝 遺構検出状況

H 26-13

遺跡名：坊所五本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字五本谷

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：147m²

調査面積：10m²

調査時期：平成26年8月6日

立地と環境：坊所五本谷遺跡は、本町郡境集落付近から

下津毛集落付近へ延びる下津毛丘陵の南

部、標高約7m～16m付近に広がる弥生・古墳時代の集落および墳墓遺跡である。

現下津毛集落が立地する下津毛丘陵は丘陵の東西を谷水田が走り南北に細長い舌状の丘陵で、丘陵北部には坊所一本谷遺跡、外記遺跡、上のびゅう塚（都紀女加王墓）などが所在し、南部には本遺跡が立地している。

調査対象区域はこの下津毛丘陵の中南部西辺部、標高14m付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施済。

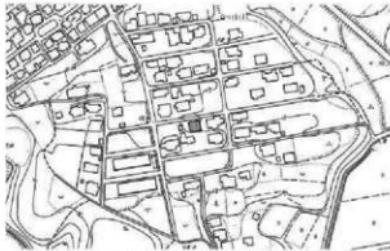


Fig. 16 坊所五本谷遺跡(1) (1/5,000)



PL. 15 №1試掘溝

H 26-14

遺跡名：三上遺跡(4)

調査地：上峰町大字坊所字三上

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：1,040m²

調査面積：90m²

調査時期：平成26年8月8日

立地と環境：三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本

町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中

央部、標高約8m～16m付近に広がる绳文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

本町と西方の吉野ヶ里町にまたがる目達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されているが、それ以前はいくつかの丘陵と谷が入り組んだ複雑な地形を呈しており、一帯の丘陵部には大塚、古稻荷塚、稻荷塚などの前方後円墳が点在し目達原古墳群を形成していた。

調査対象区域は目達原丘陵の北部、標高16m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代のものと考えられるピットを検出した。遺物は検出されなかった。

調査後措置：地盤表層改良工が実施される建物部分370m²について記録保存を目的として本調査を実施。本調査後、工事実施。



Fig.17 三上遺跡(4) (1/5,000)



PL.16 No.1試掘溝 遺構検出状況

H 26-15

遺跡名：坊所五本谷遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字五本谷

工事内容：埋蔵文化財の有無確認

工事面積：320m²

調査面積：36m²

調査時期：平成26年11月18日

立地と環境：坊所五本谷遺跡は、本町郡境集落付近から

下津毛集落付近へ延びる下津毛丘陵の南

部、標高約7~16m付近に広がる弥生、古墳時代の集落および墳墓遺跡である。

現下津毛集落が立地する下津毛丘陵は丘陵の東西を谷水田が走り南北に細長い舌状の丘陵で、丘陵北部には坊所一本谷遺跡、外記遺跡、上のびゅう塚（都紀女加王墓）などが所在し、南部には本遺跡が立地している。調査対象区域はこの下津毛丘陵のほぼ中央、標高14m付近に位置しており、これまで宅地内の空き地であった。

遺構と遺物：中世のものと考えられるピットや土壙等を検出した。土師器片を検出した。

調査後措置：調査対象区域の西側に遺構が遺存していることが確認された。



Fig. 18 坊所五本谷遺跡(2) (1/5,000)



PL.17 No.1試掘溝 遺構検出状況

H 26-16

遺跡名：坊所一本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字七本谷

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：2,717m²

調査面積：55.m²

調査時期：平成26年12月16日

立地と環境：坊所一本谷遺跡は、本町堤地区付近から井

手口住宅地区付近へ延びる井手口西丘陵

の北西部、標高20m付近に広がる弥生時代の集落遺跡である。

本遺跡が立地する井手口西丘陵南部には坊所二本谷遺跡が所在し、佐賀成田山付近を谷頭とする谷水田を挟んで東方の井手口東丘陵上には一本谷遺跡や井手口遺跡が、またイオン上峰店付近を谷頭とする谷水田を挟んで南西の下津毛丘陵上には外記遺跡、坊所五本谷遺跡がそれぞれ所在している。

調査対象区域は、この下津毛丘陵の北西部、標高21m付近に位置しており、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：旧倉庫のコンクリート土間が全面に遺存していたためそれ以上の掘削は不可能であった。

調査後措置：設計変更後、工事実施。



Fig.19 坊所一本谷遺跡 (1/5,000)



PL.18 N.1試掘溝

H 26-17

遺跡名：周知外 中村地区(2)

調査地：上峰町大字坊所字二本松

工事内容：県道神崎北茂安線改良工事

工事面積：67m²

調査面積：7m²

調査時期：平成27年1月14日

立地と環境：調査対象区域は中村地区の沖積地標高5m

付近に位置し、これまで空き地となっていた

た。当該地の周辺には中世の集落跡である加茂環濠集落跡がひろがる。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



PL.19 No.1試掘溝

H 26-18

遺跡名：米多城跡(2)

調査地：上峰町大字前半田字館

工事内容：資材置場造成工事

工事面積：214m²

調査面積：14m²

調査時期：平成27年2月10日

立地と環境：米多城跡は、上峰町大字前半田字七反田・

星敷の坪・館・姥井鶴・一本桜一帯に所

在する中世城館跡で、町南西部の目達原丘陵南端部が沖積地に接する現米多集落南部、標高3m付近に位置している。

調査対象区域は現寺家一集落内の沖積地標高3.5m付近に位置しており、畑地として利用されていた。

遺構と遺物：中世のものと考えられる土壙を検出した。遺物包含層の中に土器の小片が散見された。

調査後措置：検出された遺構については工事の影響が及ばないことを確認し盛土保存。工事実施。



Fig.21 米多城跡(2) (1/5,000)



PL.20 作業状況

H 26-19

遺跡名：大塚遺跡

調査地：上峰町大字坊所字大塚

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：1,414m²

調査面積：90m²

調査時期：平成27年2月12日

立地と環境：大塚遺跡は、町中部の上峰町大字坊所字大

塚に所在し、本町と三田川町に跨る目達原

丘陵の基部付近に位置する弥生時代から奈良・平安時代に及ぶ集落、墳墓遺跡である。

調査対象区域は現在、目達原丘陵の基部標高20m付近に位置しており、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.22 大塚遺跡 (1/5,000)



PL.21 No.1試掘溝

H 26-20

遺跡名：三上遺跡(5)

調査地：上峰町大字坊所字西峰

工事内容：埋蔵文化財の有無確認

工事面積：945m²

調査面積：90m²

調査時期：平成27年3月10日

立地と環境：三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本

町米多集落付近へ延びる日達原丘陵の中

央部、標高約8m～16m付近に広がる绳文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

本町と西方の吉野ヶ里町にまたがる日達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されているが、それ以前はいくつかの丘陵と谷が入り組んだ複雑な地形を呈しており、一帯の丘陵部には大塚、古墳荷塚、積荷塚などの前方後円墳が点在し日達原古墳群を形成していた。

調査対象区域は目達原丘陵の北部、標高16m付近に位置しており、これまで畠として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：埋蔵文化財なし。



Fig.23 三上遺跡(5) (1/5,000)



PL.22 調査区全景

H 26-21

遺跡名：周知外 八枚地区

調査地：上峰町大字江迎字八枚

工事内容：駐車場用地造成工事

工事面積：47m²

調査面積：8m²

調査時期：平成27年3月11日

立地と環境：調査対象区域は、町南東部、八枚地区の沖

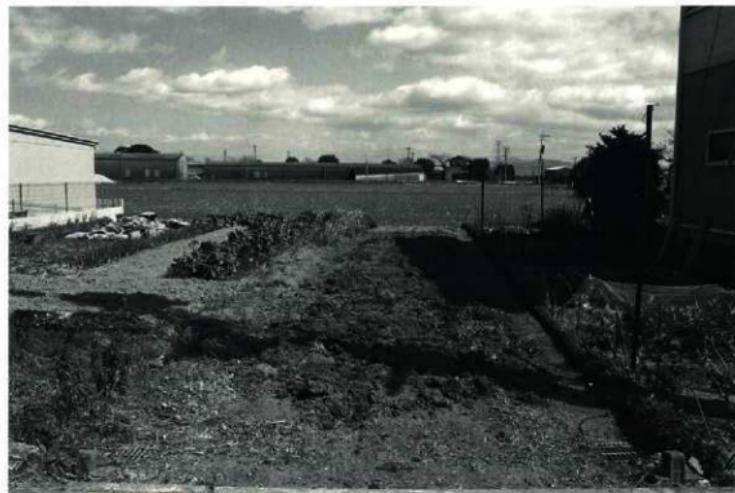
積地標高4m付近に位置し、これまで空き地
となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施。



Fig.24 周知外 八枚地区 (1/5,000)



PL.23 調査区近景

報告書抄録

| ふりがな | かみみねちょうないいせきかくにんちょうさⅦ | | | | | | | |
|------------------|---|-------------------------|-----------|--------------------------------|-------|------------------------|--------------------|--------------|
| 書名 | 上峰町内遺跡確認調査Ⅶ | | | | | | | |
| 副書名 | 上峰町内における開発行為に伴う埋蔵文化財確認調査報告書 ——平成26年度— | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 上峰町文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第41集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 原田 大介 伊達 有彩 | | | | | | | |
| 編集機関 | 上峰町教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4 上峰町民センター内 Tel 0952-52-3833/Fax 0952-52-3888 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2016年3月31日 | | | | | | | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積m ² | 調査原因 |
| 市町村 | 遺跡番号 | 市町村 | 遺跡番号 | ° ′ ″ | ° ′ ″ | | | |
| 佐賀県三養基郡 上峰町一円 | 41345 | | | | | 2014.4. ～ 2015.3 | | 町内における各種開発行為 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | | 特記事項 | |
| 町内遺跡 | 古墳 集落跡 城館跡 | 奈良・平安 中世 近世 近代 | 周溝・溝跡・土壙等 | 須恵器・土師器・中世陶磁器・中世土器・近世陶磁器・近代陶磁器 | | | | |

上峰町文化財調査報告書第41集
上峰町内遺跡確認調査Ⅶ

平成28年 3月23日 印刷

平成28年 3月31日 発行

発行 上峰町教育委員会

佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4

印刷 大同印刷株式会社

佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20



